

令和3年度 現職教育研究計画

相馬市立磯部中学校

I 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を目指して
～ リーディングスキルを生かした指導を通して ～

II 主題設定の理由

1 教育の今日的課題から

中学校学習指導要領の改訂の基本方針として、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、そのためには、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの実践）を推進することが求められる。これらを踏まえ、各教科による授業実践及び研究を推進したいと考える。

2 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「進んで学ぶ生徒・心豊かな生徒・健康でたくましい生徒」の3つの目標を設定している。また、重点目標として「自ら深く考えて、ともに向上できる生徒」を掲げ、相馬市教育委員会の「ICTとRSTを今後の両輪とする。」という方針のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教育課程を改善し、「知識や技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の育成を目指している。

3 生徒の実態、地域の実態から

(1) 生徒の実態

学校評価アンケートの結果より、本校生徒の実態として、「素直な気持ちを持つ」「明るくのびのびしている」「思いやりがある」という反面、「よく考えて行動する」「自分から進んで勉強する」は、ここ2年間低い数値を表している。このことから、「自主的・主体的な態度の育成」を図ることが課題であることが浮き彫りとなった。また、「自分の考えをはっきりと言える」の数値が低いことから、どのような場面で、何が要因となって発言できないかを個々によって捉え、支援することも大切であると考えます。

(2) 地域の実態

磯部地区は、震災前は水産業と農業が中心だった。昭和57年には約100名の生徒がいたが、少子化が進み60名程度まで減少、そして10年前の東日本大震災後には20名前後になった。地域や保護者のまともりはよく、隣接する井戸端長屋との交流も継続し、やさしく素直な生徒が多い。しかし、地域全体として、震災で家族を亡くし、津波の被害で転居した家庭も多い。

学校評価アンケートでは、**学校への期待**として「**基礎学力を身に付けさせる学校**」「**ICTを取り入れてほしい**」に関する項目が高い。定期テスト前の1週間を「メディアコントロール週間」と名付けて家庭での過ごし方を見直し、家庭学習の時間を確保する取り組みを行っている。

III 研究の実際

1 研究主題および副主題のとらえかた

「進んで学ぶ生徒」とは、疑問や課題を自ら見つけて、積極的に学ぼうとする生徒や、自分から進んで家庭学習に取り組んでいる生徒であると考えます。また、重点目標である「自ら深く考えて、ともに向上できる生徒」の育成には、さらなる**学力向上**やICT活用による**学習活動の充実**や**読解力**を高めること、少人数の人間関係をよりよいものに育むことが大切であると考えます。

2 研究仮説

子供たちが、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶことがさらなる学力向上につながるだろう。子供たちが教科書を読みこなし、授業内容を理解して学力向上を実現させることができるために、リーディングスキルの向上が必要不可欠である。子供たちがリーディングスキルを使い、自律的に適切な情報活用や自己表現活動を通して学習課題を解決し、自らの学びを振り返って改善させる経験をさせなければならないと考える。

3 研究内容

各教科においてリーディングスキルの視点を取り入れて学力向上を図り、「主体的・話的で深い学び」を実践する。

4 研究方法

(1) リーディングスキルの視点を入れた授業の実践と事前・事後授業研究会の実施

- ・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びを実現するために、福島県「授業スタンダード」の活用を図るとともに、指導過程にリーディングスキルの視点を取り入れる。
- ・各教科での探求のプロセスにおける様々な場面において、ICT機器を活用した学習指導の充実を図る。
- ・互見授業としての授業研究会とし、事前、事後授業研究会を推進する。

(2) リーディングスキルアップタイムの実施と分析（別紙①）

(3) 基礎学力コンクールの実施

漢字力、計算力、英単語力を身に付けさせるコンクールを全校生で実施する。合格点を決めて練習期間を設定し、学習意欲を喚起させる。不合格者に対しては、補充学習を行って再テストを受けさせ、再テストでの合格も合格とし、学習の達成感が得られるようにする。

(4) 小中連携

本校職員と磯部小学校の先生方の授業を互見して事後研究会に参加し、子どもたちの実態を把握して学力向上の対策を練る。

5 仮説の検証

- ア 全教師がリーディングスキルの視点を取り入れた授業を計画、実施し、互いに参観し合う。
- イ 参観授業の事前研究と事後研究協議会を行う。
- ウ 教師のリーディングスキルに関するアンケートを2回実施して、変容を把握する。
- エ 生徒の学習成果を示す『学習のあしあと』を作成し、家庭にその結果を知らせる。家庭と連携して学習指導に活かせるようにする。

6 研究推進計画（割愛）

7 授業研究の実際と成果・課題（第2回授業研究会より）

【国語科】

授業実施日時：令和3年9月10日(金)2校時 題材名：人間のきずな「字のない葉書」

授業のねらい：時代の状況、事物を映し出した的確な表現に着目し、筆者の思いを読み取る。

評価 価：筆者の立場に立ち、「父」へ手紙を書き、「父」に対する思いを表現する。

手立 て：時代の状況、事物を映し出した的確な表現に着目し、筆者の思いを読み取らせる。

RSTの視点：「この手紙」、「あの手紙」が示すものを明らかにする。（照応解析）

○成果

- ・言葉を吟味することで、作品に深い関心を持つことができた。
- ・言葉の意味を全体で確認することで、読解を同じ知識から始めることができた。



●課題

- ・言葉にこだわり、時間をかけすぎると、作品の全体像や人物表現等の読み取りへの興味・関心が続きにくい。
- ・言葉の扱い次第では社会科にもなりかねず、単元の学習課題をするための課題を押さえることが大切。
- ・調べた言葉につながりをもたせる学習活動を設けないと、教師主体の授業になってしまう。

【社会科】

授業実施日時：令和3年12月10日（金） 題材名：7 江戸幕府の滅亡

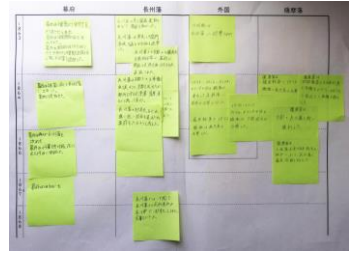
授業のねらい：徳川慶喜が大政奉還を決意した一番大きな理由は何かを幕末の出来事を相関表にまとめ考える。

評価 価：徳川慶喜が大政奉還した原因を根拠に考え、意見を発表する。

手 だ て：幕府、長州藩、薩摩藩、外国が行ったことをわかりやすく整理するために相関表を使う。

RSTの視点：①主語、動詞を判断する（係り受け解析）

②「幕府」「長州藩」「薩摩藩」「外国」を主語に文を書き換える。（同義文判定）



○成果

- ・主語を明確にすることで、今後の学習で主語、述語を意識するようになる。
- ・どの授業でも生徒達は何が主語なのかという意識が低いので、本時の実践は良かった。

●課題

- ・一つの文章が長く、意味が濃い。読解力が足りないと内容把握が困難。
- ・『下関』などの地名の漢字を読めない生徒が見られた。全体で読んで確認した方がよかったのではないかな。

【数学科】

授業実施日時：令和3年12月16日（木）5校時 教材名：平行と合同

授業のねらい：根拠を明らかにしながらブーメラン形四角形の角を求めるには？

評価 価：筋道を立てて考え、図形の性質が成り立つわけを既習事項の性質を根拠として説明することができる。

手 立 て：ジャムボードを利用し、自分の考え、友達の考えを比較、共有する。

RSTの視点：①性質を理解し具体的な図と対応させる。（具体例同定<理数>）

②数字を文字化し一般化した上で図形と結びつける。（イメージ同定）



○成果

- ・ICTとノートを併用しながらどう問題を読み込むか、他者の考えを読み解くか、それを自分で数学用語や根拠をもとにノートにまとめるかに視点をおき、RSの指導が生かされていた。
- ・学習課題を見える化させたことで、自分の考えを意欲的に発表できていた。
- ・ジャムボードに書き込ませたりすることで、他者の意見に興味をもち、そこに自分の意見を付け加えたり、賛同したりして疑問を持つなど、今まで以上に積極的に問題の解決、さらには、解決にいたるまでの道筋、根拠をスムーズに意識させることができた。

●課題

- ・1授業のねらいや身につけさせたいことは明確だが、もっと単元でのねらいを意識したノートづくりやポートフォリオづくり、問題の精選などを意識していかななくてはいけない。
- ・インプットさせたことをどのようにアウトプットさせていくか、研究を進める。

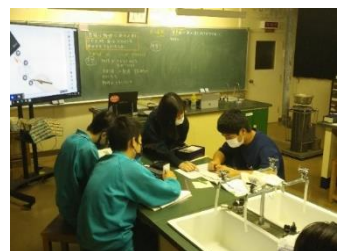
【理科】

授業実施日時：令和3年12月1日（水）1校時 単元名：身の回りの現象

授業のねらい：光が水やガラス物質の境界面で屈折するときの規則性を見いだす。

評価 価：ガラスに入射させた光の進み方を調べる実験を行い、光の屈折の規則性を見いだすことができる。

手 立 て：ガラスの中、ガラスを通りぬけるときに分けて考えさせる。



RST の 視点：①教科書内容に沿って実験を行う。(イメージ同定)

②文の構造を捉えるために、「何が、何から・・・」を押さえる。(係り受け解析)

③実験の結果を予想する。(推論)

○成果

- ・透明な物体での様々な屈折現象の観察を通して、生徒の興味関心が高まり、意欲的に取り組む生徒が多かった。
- ・教師が主語を意識することで、生徒の話し合い活動の中でも主語を意識した表現が見られた。

●課題

- ・教科書には実験観察の結果が載っているため、いつ教科書を見るかを考えなければいけない。実験の方法に結果がしっかりと記載されていたため、何を調べて記録していいのかわからない生徒が見られた。

【英語科】

授業実施日時：令和3年12月15日(水)4校時 題材名：Unit 5 Universal Design

授業のねらい：『ユニバーサルデザイン』の大切さについて英語で表現できる。

評価：ユニバーサルデザインの重要性を英文で表現することができる。

手立て：①音読の練習をさせる (ICT 機器の使用、ペア読み)。

②日本の人口の割合を示す図を使用させる



RSTの視点：①接続詞 So が示す理由や、different idea や it が具体的に示すものを理解する。(照応解決)

②提示された英文内容を本文に照らしせ、その真偽について判断する。(同義文判定)

③ユニバーサルデザインがなぜ必要なのか、社会でどう役立っているのか、表現する。(具体例生成)

○成果

- ・品詞別の単語のゲームや本文中の指示語など、言葉を意識して授業を進めることで、生徒たちも言葉の重要性を認識できると実感した。
- ・授業作りワークシートで考察された語句に線を引いたり、図式化したことで理解が促された。

●課題

- ・語句や本文内容の理解に時間がかかってしまい、考えを伝えたり、感想や考えを書いたりする時間が不足した。
- ・言語材料の練習と表現活動をスパイラルに関連させるなど、指導過程に改善を加えることが必要である。

【保健体育科】

授業実施日時：令和4年1月14日(金)4校時 題材名：喫煙の害と健康

授業のねらい：喫煙は体にどのような害を及ぼすのか

評価：①ICTの活用、実験を通して体に与える影響を理解し、発言することができる。

②たばこに含まれる有害物質とそれが体に及ぼす影響が理解できる。

手立て：キーワードや関係画像を言葉にしたり、文章でまとめさせる。

RSTの視点：①実験や肺の図を活用して、考えさせ言葉で表現させる。(具体例生成)

②「依存性」の状態を別の言葉で表すことで身体への害の大きさを実感させる。(同義文生成)

○成果

- ・実物に書いてあるタバコに書いてあることを提示することでより「害」があることが理解できた。
- ・生徒の言葉をそのまま利用してまとめに結びつけるのはよかった。

●課題

- ・教科のねらいに向けてのRSTをうまく活用させる。
- ・実験では予想と結果をノートに書かせてもよかったのではないかな。
- ・たくさんの情報、言葉からキーワードを見つけさせ、それらを使ってまとめさせる。
- ・資料を厳選、言葉と照らし合わせることもRSではないか。



【今年度の成果と課題～教員アンケートより】

今年度は、研修主題の実現に向けて、RSTの視点を生かした授業改善を行ってきた。教員からアンケートで寄せられた成果と課題として、次のことが挙げられた。

○ 成果

- ① 教科書にある言葉や式、図などについて今まで以上に丁寧に扱うようになった。生徒がそれらを使って説明したり、文章に表したりすることで、思考力や表現力を活用する学習活動の場が増え、生徒主体の授業になってきている。
- ② 教師がRSTの視点に意識を持って指導に取り組むことで、生徒のつまずきに配慮した授業を展開することができた。
- ③ RSTの視点について他教科の教員とともに授業研究をすることで、言葉のもつ深さや広がりに基づき、言葉の大切さを改めて実感して授業を進められた。
- ④ RSTの結果から、『同義文判定』が昨年度と比較して大きく下がったことから、「授業づくりワークシート」に『同義文生成』と『具体例生成』の枠を新たに設けて教材研究を深め、意識して授業に取り入れた。生徒の思考力、判断力、表現力の活動の場に展開することができた。
- ⑤ 週末課題であるコラムの要約については、視写を行った題材で課題を出した。「黙読」、教師の範読による「確かめ」、「音読」、「視写」というステップを踏ませ、内容を理解した上で、要約の作業をさせることで、ポイントを押さえられるようになってきた。

● 課題

- ① 「係り受け解析」と「照応解決」は、RSTでも課題である。どの教科においても、問題文を正確に読み取ったり、文の構造を把握したりすることが基本であることから、教科の特質に応じて意識的に指導の様々な場面に取り入れたい。
- ② 学習課題の解決のためには、RSTのどの視点をどのように授業に取り入れればよいかについて、今後も研修を深めていかなければならない。
- ③ 50分の授業時間の中で、言葉の意味や文の論理的なつながりにかける時間と思考力や表現力にかかる時間をどのように確保したらよいかについて、授業研究会等で協議していきたい。
- ⑤ RSTの視点を生かした授業実践資料を収集し、活用したい。
- ⑥ 小中連携授業参観や事後研究など、小中で共通した教育活動の取り組みをすることで、小中連携を意識したRSについての理解を高めていく必要がある。



(視写活動『黒潮タイム』)



(教師のRSTアップタイム)



(国語科授業研究)

「授業づくりワークシート (保健体育科)」

別紙① 【リーディングスキルタイム（RST）の実施について】

=====

☆【生徒のRSTへの取り組み】（授業中や朝の時間等の取り組み）

○今年度から、朝の読書をやめ、全校生徒「朝日中高生新聞」を読む。

（火～金。月2回の配付で、2週間で隅々まで読む）

帰りの学活で、1分間スピーチ。月曜の朝は、週末課題の要約の確認、修正を行う。

○学期に何回か、校長からの新聞記事を提示。全校生徒がその内容を要約する。

○月曜日の帰りの学活後15分間。RSUタイム（リーディングスキルアップ：黒潮タイム）を実施。

市教委から配付のコラムシートを活用し、黙読、音読、視写を実施。



☆【教師のRSTへの取り組み】

○毎週金曜日の3校時に、現職部会を開き、RSTの取組について情報共有を実施。（4月～）

○毎週月曜日の放課後に、教職員研修会を実施し、伝達講習会や授業研究などRSTの取組について情報共有を実施。（4月～）



☆【RSTの取り組みについての感想】

生徒は、新たな取り組みに対して、RSUタイムの名前を考えたり、意欲的に取り組んでいる。

教職員については、授業にどう落とし込んでいくかを毎週の教職員研修会で情報共有することで、教職員の意識改革を行っている。放課後など、親密度のない語句や係り受けなどのキーワードの話合いが多くなった。

授業づくりワークシートを実践してみて、他教科の目線で複数の教師で話しあったことから、教師側も新たな気づきや発見をした中で、授業を実施したり、参観することができ、教科書を読み解くことの重要性を実感した。

